

大学生活に対する第二部学生の態度と学生相談の方向

林 潔 滝本 孝雄¹⁾

1. 序

現在、四年制大学の第二部に在学している学生は、大学生数の7.7%にあたる(第1表)。大学によっては、第一部、第二部の講義時間の交流もおこなわれている。また、第二部学生が必ずしも勤労学生ではないという現実もある。しかし、第一部学生と第二部学生という相違が、いかなる意識構造の相違をもたらしているであろうか。

第一部、第二部学生の意識の対比については、最近では学生生活のすごし方(東京都立大学学生相談室, 1978)、留年理由(同, 1979)学生相談の傾向(法政大学学生相談室, 1979)についての調査がある。学生生活のすごし方では、A類(第一部相当)学生を理想が高いというか現実批判的、B類(第二部相当)学生を現実受容的のとらえている。留年理由では、A類が「就職できなかった」「卒論未完成のため」「卒業後の進路に悩んで」を主にあげているのに対し、B類では「勤務の都合」が断然多く、「勉学の意欲をなくした」「私自身の病気のため」「教免等資格取得のため」「夜の授業しかとれなかったので単位不足になった」をあげている。そして学生相談の傾向では、第一部学生は心理的問題に当面することがやや多いかも知れない、また第二部学生の相談の87%が転籍(部)、転校の相談であると、その特徴をあげている。

表1 昭和51年度大学生(四年制)数

	計	男	女
第1部	1,571,235	1,208,810	362,425
第2部	131,000	118,561	12,439
計	1,702,236	1,327,371	374,864

学校基本調査報告書 51年度

第一部学生に対する第二部学生の意識の特徴と、第二部学生の意識の性差を明らかにすると共に、第二部学生のパーソナル・サービスの方向について考察することが、本研究の目的である。意識構造の理解は、それぞれの意識の分野における意識の水準が、学生生活におけるモラルを規定するという前提によってなされるものである。

2. 第二部学生の意識調査

(1)意識調査の方法

学生生活の意識調査の質問紙を用いて、第二部学生の意識調査を、1978年9月から12月に実施した。この質問紙は、学園生活満足度の調査の質問紙(和田, 田崎 1978)に、学生相談における学生の問題内容に対応する項目を加えて、1978年に作成したものである。調査対象は、首都圏の私立大学3校の在学者男子185名、女子60名の計245名である。この調査結果と、同時期に第一部大学生を対象に実施した調査結果(首都圏の国立大学2校と私立大学5校の在学者男子555名、女子726名)とを対比した。すなわち、各質問項目について平均と標準偏差とを求め、*t*検定によって差の検定をおこなった。

(2)意識調査の結果

学生生活の意識調査の96項目に対する第二部学生の反応は、表2、3のとおりである。そして、第一部学生との有意差のみられた反応は、次のとおりである。

- (A)第一部学生が肯定、第二部学生が否定の項目
 - (a)男子 91たいして勉強しなくても卒業に必要な単位はとれる
 - (b)女子 26卒業後専門を生かせる職業につけそうだ 37学生だからという拘束がある
- (B)第一部学生が否定、第二部学生が肯定の項目

1) 独協大学

表2 第二部学生男子の結果

No.	\bar{X}	S D		No.	\bar{X}	S D		No.	\bar{X}	S D		No.	\bar{X}	S D	
1	1.30	.69		31	1.93	1.16		61	3.06	1.59	**	91	3.35	1.41	**
2	2.71	1.60		32	2.65	1.47	**	62	3.07	1.32	*	92	2.31	1.21	
3	2.60	1.34	**	33	3.15	1.32	**	63	1.27	.67		93	2.21	1.16	
4	2.20	1.27	**	34	1.86	1.03		64	2.20	1.20		94	2.60	1.34	**
5	1.86	1.26		35	1.27	.63		65	3.86	1.08		95	2.52	1.25	
6	1.97	1.15		36	2.18	1.13		66	1.43	.83	**	96	1.27	.74	
7	3.21	1.51		37	3.19	1.35		67	3.37	1.20	**				
8	2.68	1.32		38	3.79	1.34		68	3.69	1.21					
9	2.43	1.31	**	39	2.77	1.41	*	69	4.13	1.05					
10	4.22	1.22		40	1.94	1.26	**	70	2.96	1.26					
11	2.36	1.24	**	41	3.10	1.54		71	2.78	1.40	*				
12	3.53	1.26	*	42	1.35	.86		72	3.62	1.30	**				
13	1.87	1.17	*	43	1.45	.85	*	73	3.29	1.41					
14	2.39	1.16		44	2.73	1.33		74	2.72	1.35					
15	2.88	1.37		45	2.67	1.24		75	3.25	1.16					
16	2.61	1.47		46	1.79	1.10	*	76	4.03	1.25	*				
17	3.08	1.31	**	47	2.58	1.51		77	2.30	1.29					
18	2.47	1.26		48	3.68	1.30		78	2.31	1.39	**				
19	3.97	1.38		49	3.03	1.57	**	79	2.56	1.44	**				
20	2.11	1.14		50	2.83	1.52		80	2.08	1.23					
21	2.86	1.34		51	3.44	1.44	*	81	3.66	1.25					
22	2.70	1.43		52	2.56	1.36		82	2.61	1.33					
23	2.92	1.63		53	2.91	1.43	**	83	2.32	1.39					
24	1.82	1.16		54	2.96	1.46		84	4.02	1.22					
25	3.35	1.53		55	2.51	1.40		85	3.26	1.29					
26	3.58	1.33	**	56	3.31	1.39		86	1.41	.82	**				
27	2.49	1.50	**	57	2.89	1.62		87	3.82	1.27					
28	2.53	1.51	*	58	2.57	1.34	**	88	2.53	1.37	**				
29	3.12	1.33		59	3.63	1.25		89	2.75	1.28					
30	2.26	1.47	**	60	2.27	1.26		90	2.72	1.32					

判定基準

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. そう思う | * $P < .05$ |
| 2. ややそう思う | ** $P < .01$ |
| 3. どちらでもない | |
| 4. ややそう思わない | |
| 5. そう思わない | |

表3 第二部学生女子の結果

No	\bar{X}	S D		No	\bar{X}	S D		No	\bar{X}	S D		No	\bar{X}	S D	
1	1.12	.42		31	2.02	1.33		61	3.38	1.64		91	2.95	1.34	
2	3.15	1.67		32	3.31	1.45		62	2.47	1.27		92	2.68	1.67	
3	2.25	1.14	*	33	3.65	1.29		63	1.23	.74		93	2.33	1.08	
4	1.95	1.25		34	1.88	1.19		64	2.22	1.25		94	1.75	.99	*
5	2.08	1.34		35	1.28	.90	*	65	3.57	1.20		95	2.55	1.19	
6	2.05	.95		36	2.13	1.16	*	66	1.22	.64		96	1.38	.96	
7	3.05	1.67		37	3.28	1.38	**	67	3.58	1.24	**				
8	2.60	1.50		38	3.73	1.38		68	3.50	1.36					
9	2.34	1.31		39	2.50	1.41	**	69	3.90	1.07					
10	4.47	1.10		40	1.72	.98	**	70	3.02	1.46					
11	1.53	.72	**	41	3.32	1.52		71	2.49	1.30	*				
12	3.35	1.44		42	1.55	1.13	*	72	2.69	1.51					
13	2.83	1.38	*	43	1.12	.56		73	2.57	1.52	**				
14	2.25	1.05	**	44	2.27	1.25	**	74	2.83	1.46	*				
15	2.64	1.39	*	45	2.53	1.23		75	2.95	1.24					
16	2.79	1.57		46	1.62	.98	*	76	3.70	1.44	**				
17	2.85	1.37		47	2.55	1.55		77	2.52	1.51					
18	2.90	1.43	*	48	3.64	1.37		78	2.90	1.47					
19	4.10	1.27		49	2.75	1.59	**	79	2.69	1.36					
20	2.03	1.06		50	2.75	1.66		80	1.73	1.19					
21	2.78	1.33	**	51	2.88	1.54	**	81	3.34	1.20	*				
22	2.90	1.53		52	3.08	1.44	**	82	2.65	1.51					
23	2.32	1.53		53	2.58	1.49	*	83	2.32	1.49					
24	1.72	1.27		54	3.47	1.37		84	3.52	1.41					
25	2.43	1.50	**	55	2.83	1.61		85	3.22	1.46					
26	3.31	1.42	**	56	3.10	1.36		86	1.33	.96	**				
27	2.88	1.55		57	3.32	1.62		87	3.31	1.35	*				
28	2.28	1.53		58	3.14	1.40		88	2.56	1.44	**				
29	2.87	1.36		59	3.75	1.22		89	2.58	1.59	**				
30	2.50	1.52		60	2.37	1.50		90	2.67	1.43	**				

判定基準

表2に同じ

(a)男子 32異性と知り合う機会がない
58いっしょうけんめい勉強しないと授業についていけない

(b)女子 39やりたいことが多くて勉強に身がはいらない 49入りたいクラブがない 51

大学の厚生施設(食堂など)が便利だ 73現在が自分自身の一番充実している時だと思う

(c)第一部学生が中立, 第二部学生が肯定の項目

(a)男子 9効果的な学習の方法がわからない
30自分自身の時間が少なすぎる 39やりたい

46 白梅学園短期大学紀要第16号 (1980)

ことが多くて勉強に身がはいらない 71つき
たいと思う職業と自分の能力とが一致しない

(b)女子 15希望をもって入学したのに思った
ほど楽しくない 25なぜ生きているのかわか
らないときがある

(D)第一部学生が中立, 第二部学生が否定の項目

(a)男子 26卒業後専門を生かせる職業につけ
そうだ 67クラブ活動に生きがいを感じる

(b)女子 81この大学にはまじめで熱心な学生
が多い

(E)第一部学生が肯定, 第二部学生が中立の項目

(a)男子 17現在の学生生活は全体としてうま
くいっている 53今の専攻学科に入学してよか
ったと思ってる 62学校にいることが楽しい

(b)女子 18母親から期待されている 52ラ
ジオ, ステレオ, テレビで時間を過すのが楽しい

(F)第一部学生が否定, 第二部学生が中立の項目

(a)男子 49入りたいクラブがない 61打ち
こんでやるものがみつからない

(G)双方とも肯定で, 第一部学生がより強く肯定
している項目

(a)男子 3他人の気持が気になる 4学生
生活は比較的自由である 11もっと深く学問
がしたい 28希望する就職ができるかどうか
不安だ 43もっと広い知識, 教養を身につけ
たい 66自分の個性や可能性を伸ばしたい
86自分を充実させていきたい 88大学でよい
友人にめぐり合えた 94読書が好きだ

(b)女子 3他人の気持が気になる 13異性
の友人がもっと欲しい 35学生時代にいろ
んな経験をしておきたい 36困った時友人同
士よく助け合う 42旅行をしたい 53今の
専攻学科に入学してよかったと思っている
74実行力や決断力が乏しい 86自分を充実さ
せていきたい 88大学でよい友人にめぐり合
えた 89母親と話合うことが多い 90スタ
イルが気になる

(H)双方とも肯定で, 第二部学生がより強く肯定
している項目

(a)男子 13異性の友人がもっと欲しい 27
単調な毎日だ 40マス・プロ (多人数) の授
業が多い 46学生と先生と話合う機会が少な

い 78学校の中で自由な時間がほしい 79
つきあいがへただ

(b)女子 11もっと深く学問がしたい 14社
会問題が気になる 21根気がなくてすぐあき
る 40マス・プロ (多人数) の授業が多い

44先生にいろいろなことを相談したい 46
学生と先生と話合う機会が少ない 71つきた
いと思う職業と自分の能力とが一致しない

94読書が好きだ

(I)双方とも否定で, 第一部学生がより強く否定
している項目

(a)男子 33授業についていけない 51大学
の厚生施設 (食堂など) が便利だ 76友人が
ない

(b)女子 76友人がない 87大学の勉学の環
境はよく整っている

(J)双方とも否定で, 第二部学生がより強く否定
している項目

(a)男子 12友人同士たがいに刺激し合っ
て勉学している 72この大学にきてよい先生に出
会った

(b)女子 67クラブ活動に生きがいを感じる

また, 第二部学生の反応のうち, 性差のみられ
るものは次の項目である。

(A)男子が肯定, 女子が否定の項目 32異性と知
り合う機会がない 58いっしょうけんめい勉
強しないと授業についていけない

(B)男子が否定, 女子が肯定の項目 25なぜ生き
てるのかわからないときがある 51大学の厚
生施設 (食堂など) が便利だ 72この大学に
きてよい先生に出会った 73現在が自分自身
の一番充実している時だと思う

(C)男子が中立, 女子が肯定の項目 23恋愛と結
婚は一致するのが理想だ 62学校にいること
が楽しい

(D)男子が中立, 女子が否定の項目 54経済的に
困難だ

(E)男子が肯定, 女子が中立の項目 18母親から
期待されている 52ラジオ, ステレオ, テレ
ビで時間を過すのが楽しい 78学校の中で自
由な時間がほしい

(F)双方とも肯定で、男子がより強く肯定している項目 13異性の友人がもっと欲しい 27単調な毎日だ

(G)双方とも肯定で、女子がより強く肯定している項目 11もっと深く学問がしたい

43もっと広い知識、教養を身につけたい 44
先生にいろいろなことを相談したい 94読書が好きだ

(H)双方とも否定で、男子がより強く否定している項目 84大学の構内はゆとりがある 87大学の勉学の環境はよく整っている

(I)双方とも否定で、女子がより強く否定している項目 33授業についていけない

これらの結果、第二部学生の特徴を次のようにあげることができる。まず男子では、勉学、授業については「勉強しなければ卒業に必要な単位はとれない」「効果的な学習方法がわからない」という、勉学方法や単位取得への不安がある。「マス・プロの授業が多い」という点は、少なくとも第二部の学生が相対的に強く感じているということは、特に第二部学生の授業形態への配慮を示すものと思われる。次に将来の職業については「つきたいと思う職業と自分の能力とが一致しない」「卒業後専門を生かせる職業につけそうもない」ということで、大学教育の内容に対応した将来の職業ということでは、自信を持ちにくい傾向にある。人間関係については、「異性と知り合う機会がない」「学生と先生と話し合う機会が少ない」「この大学にきてよい先生に出会ったとはいえない」「つきあいがへただ」と、友人、異性、教員と知り合う機会を望んでいる。その他、生活時間では自由な時間、自分の時間の不足を感じ、サークル活動には積極的といえない。女子では、勉学、授業については、勉強に身がはいらないという面と、深く学問をしたいという二つの側面をもっている。将来の職業については、男子と同様の状況にある。人間関係では、教員との会話や相談を望んでいる。その他は、学生だからという拘束を特に感じず、サークル活動は男子同様積極的とはいえない。そして、生活の緊張のためか「現在が自分自身の一番充実している時」と感じている反面、「希望をもって入学したのに思ったほど楽し

くない」「なぜ生きているのかわからないことがある」という意識との葛藤にある。そして、第二部学生の場合、男子学生の方が全体的に女子学生に比べて、不満感、不安感が大きい傾向がみられる。それは、彼らの大学教育への期待に対応するものであるのか。

3. 学生相談の方向

第二部学生に対する学生相談、パーソナル・サービスの方向も、学習技能に対する援助、将来計画に対する援助、人間関係への援助が考えられる。本稿では、この中より学習技能に対する援助について考えてみたい。

限定された時間内の学習のために、第二部学生は学習上の技能が、第一部学生以上に要求される。したがって、効果的な学習技能の訓練を特に必要とする。特にこれは、公式の教育から長期間遠ざかっており、職場や家庭責任による緊張、葛藤をもつ成人学生に対する援助の前提でもある。そして、学習環境、学習態度あるいは学習習慣、授業への適合、表現能力の評価が学習技能に対する援助の基礎となる。カウンセリングに動機づけられている者は、動機づけられていない者よりも、未処置の段階でもよい効果がある (Gilbreath) とすれば、ここにカウンセリング・サービスにおいて、この問題を一つの主題としていく必然性がある。

この、カウンセリングにおける学習技能訓練について、Hancock は次のプログラムをあげている。これは約10名の小集団による6回(必要により2回追加、各回1時半から2時間)のプログラムである。1. 導入、場面設定(自己紹介、ミニレクチャー、一般的学習技能、態度についての討議、学校と大学の相違、大学での経験)2. 時間管理(1)(20分:非公式討議、ミニレクチャー 30分:ペア、円形で練習 20分:集団討議、宿題)

3. 同(2)(講義の聴取、ノート、準備、復習、ノートのまとめ、復読)4. 目的をもった読み方と時間管理(機能的読み方)5. 書き方(試験準備、間をとった学習、緊張の軽減、自己統制の方法)6. まとめ(新しい技法と応用、行動修正)

追加1. オリエンテーションワークショップ 同
2. Brown-Holtzman Survey of Studay Habits
& Attitudes やリーダーによる評価, 参加者のフ
ィードバック

また, Royal Melbourne Inst. of Tech. のプ
ログラムは, 次の5セッションから構成されてい
る。1. システム (学習活動—授業のタイプと学
生に期待される役割の検討, 習慣への自己評価,
現在, 中, 長期目標の明確化) II. 学生自身の
体制化 (一週間のプログラム作成, 身体のリズム
集中の技術) III. 聴き方 (聴き方, ノートのと
り方) IV. 読書技能 (読書の問題, SQ3R)
V. 試験技能 (試験技能, リラクゼーション)

Bendnar と Weinberg は, 学業不振学生の
効果的な学習指導プログラムとして, 次の5つの
条件をあげている。すなわち, 1. カウンセリン
グ関係に要する時間 (10時間以上と以下の対比で
は前者が効果的である) 2. 構造的処置 (指示的
権威主義的, アカデミック, 規範的) 3. 治療
的条件 (カウンセラーの共感, あたたかさ, 純粋
さ) 4. 学生の独立性と依存性 (前者は構造的,
後者は非構造的の方法が有効である) 5. カウン
セリングと学習技能コース (両者の組み合わせ, 特
にグループ・カウンセリングの活用) である。こ
の第1, 2の点は, 非自発的學生は成功しにくい
ということとあわせて, Mitchell, Piatkowaska
によっても同様の報告がなされている。

学習習慣の問題が, さらに学業不振へと発展し
た場合, そこに情緒の問題が影響してくる。

Lacher は学業不振學生の特質として衝動的無責
任さと学習場面に対する不安をあげる。そして,
学業上の懸念を持つ學生への接近は, 学業問題へ
焦点を合わせるとの同様に, 不安, 疎外感への焦
点をおく必要がある (Treppa)。これには, Hu-
man Potential Movement で用いられる技術
(Lewis 他) が基本的方法論となる。また,
Robinson, Thorne, Krumboltz らのカウンセリ
ングの方法論の適用される分野である。

引用

Bendnar, R.L., Weinberg, S.L. 1970 In-
gredients of successful treatment programs:
for underachievers. *j. of couns. Psychol.*
17, 1. 3~5

Gilbreath, S. 1971 Comparison of respon-
sive and nonrespoosive underachievers to
counseling service aid. *j. of couns. Psychol.*
18, 1. 83

Hancock, L. 1978 *Learning skills work-*
shops. Parkville, Vic: Univ. of Melbourne.,
Counselling Service.

法政大学学生相談室 1979 相談室年報12
2~3

Lacher, M. 1973 The life system of un-
derachieving college students. *j. of couns.*
Psychol. 20, 3. 220

Mitchell K, R. Piatkowaska, O.E. 1974
Effects of group treatment for college un-
derachievers and bright failing under-
achievers and. *j. of couns. Psychol.* 21, 6.
500

Royal Melbourne Inst of Technology
Counselling services and tertiarly study
survival program.

滝本孝雄 林潔 1979 大学生の意識構造と性
格特性 日本心理学会第43回大会発表論文集 596
東京都立大学学生相談室 1978 学生相談室レ
ポート6 38

東京都立大学学生相談室 1979 学生相談室レ
ポート7 26

Treppa, J. A. 1973 Personality characteris-
tics of successful college students who
enroll in study skills courses. *j. of couns.*
Psychol. 20, 6. 550~551

参考

中央大学学事部企画資料課 1975 昭和45年度
全学アンケート調査の概要

Craighead, W. E., Kazdin, A. E., Mahoney
M. J. 1976 *Behavior modification* Boston:
Houghton Mifflin Co.

- 学生問題研究所 1962 現代学生の生活意識についての研究
- 林潔 1977 青年期の心理と学生相談の展開
ブレーン出版
- 神保信一 中西信男 富本佳郎 橋口英俊
1978 学校相談心理学 金子書房
- Krumboltz, J. D., Thoresen, C. E. 1969
Behavioral counseling. N. Y. : Holt Reinhart & Winston Inc.
- 松山安雄 倉智佐一 西山鴻 1976 学級におけるスクール・モラルに関する研究 大阪教育大学紀要25, IV, 2
- Lewis, H., Streitfeld, H. 1972 *Growth game*. Bantam Books.
- 永沢幸七 1979 女子大学生の生活と心理 大
日本図書
- 尾形健編 1981 青年心理学 小林出版
- ロビンソン, E. P. 伊東博訳 1957 カウンセリングの原理と方法 誠信書房
- 沢田慶輔 神保信一編 1980 青年心理学
サイエンス社
- 滝本孝雄 1975 態度と人格特性との関連および態度構造について 多摩芸術学園紀要1
- 滝本孝雄 1979 日米独大学生の意識構造に関する国際比較研究 独協大学教養諸学研究14
- Thorne, F. C. 1950 *Principles of personality counseling*. Brandon, Ver. :
Journal of Counseling Psychology.
- Williams, C. 1979 Mature aged students and their families. ANZSSA triennial conference
- 和田孝彦 田崎醇之助 1978 大学生の学園生活満足度の分析 白梅学園短期大学紀要14

はやし きよし (心理学)
たきもと たかお (心理学)

SURVEY OF ATTITUDES OF EVENING COLLEGE STUDENTS AND A DIRECTION OF STUDENT COUNSELLING SERVICES

Kiyoshi HAYASHI¹⁾ and Takao TAKIMOTO²⁾

The first part of this paper was a comparative study of attitudes to college life 245 evening college students and 1,281 daytime college students. And in the second part the author suggested a direction of student counselling services beside 'personal counselling' from the point of view this survey.

The conclusion was:

1. the evening college students had got more stress on learning than daytime students,
2. in general male evening college students had got less satisfaction than female evening college students,
3. it was necessary for student counselling services to set learning skills training program especially for evening college students.

At last the author introduced learning skills training program in the University of Melbourne and RMIT and some topics of this fields in the U. S.

1) Department of Applied Psychology, Shiraumegakuen College
2) Division of Liberal Arts, Dokkyo University